NPO地球の緑を守る会/〒158-0097世田谷区用賀4-34-12グリーンハウスNo.2—231号/Tel:03-5717-9358Fax:03-5717-9359/ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞhttp://midori.mond.jp/

フォレストニュース

植林が地球を救う
令和2年(2020)5月10日
No. 149
発行　高津啓洋

頑張るレダ植樹2

レダで一年中楽しませてくれる花といえば、「ブーゲンビリア」です。ブーゲンビリアは中南米が原産地です。樹勢が強く、刈込をしないとどんどん成長し、上のほうだけ花が咲き、中はうっそうとした枝木となってしまいます。今は冬に向かい多くの木々が花の時期を終えて、種を実らせる期間となります。花瓶にはいつでもきれいな花を咲かせるブーゲンビリアがお似合いです。

南米で、くぎを跳ね返し、斧を折る木といえば「ケブラッチョ」です。どこにでも生えている土地本来の木です。成長は遅いのですが、心材は赤褐色できわめて硬質で、耐用年数が求められる用途に広く利用されています。

特に牧場づくりの柵や、木造ハウスの柱としても大きな役割を果たしてきました。水につけても鉄うのように腐らず木質が緻密で重いために水に沈み、100年経っても再利用がされるような木です。

ケブラッチョの成木

ケブラッチョの赤い実

かつて、皮なめしに用いるタンニンを取るため、大量に切り出されました。その切り出しのために、専用の木炭汽車が奥地までパラグアイ川の岸辺から敷設された跡が残っているほどです。

近年、ケブラッチョの密伐採がされて、レダにおいても、どんどんとケブラッチョの本数が減ってきています。ケブラッチョの種を集めてポット苗を作り、植樹に努めています。成長が早い木ではありませんが皆で見守っています。（レダから伊達）

ポット苗からケブラッチョを植えます

セミナーは7月11日

新型コロナウイルスのために再延期となったセミナー。

日時：７月１１日（土）夏季セミナーに変更となりました。
1部 10:00受付、10:15開始。
2部 12:30受付、12:45開始、16:00終了。

国立オリンピック記念青少年総合センター：センター棟4階

参加希望の方はFaxやメールにてご連絡ください。

講師を務める、高津啓洋理事長から、「長野の地よりなかなか動くことができませんが、7月には皆様とお会いできることを楽しみにしています」とのことです。

［お知らせ］ セミナーの期日変更のお知らせ。20年7月11日（土）国立オリンピック青少年総合センターに変更となりました。

フォレストレター

2020年5月10日

●新型コロナウイルス

世界はまさに新型コロナウイルスの抑え込みができるかで、大変なこととなっています。すでに抑え込みができたとして、模範国となっている韓国では、普段の生活に戻りつつありますし、中国は世界中に迷惑をかけていますが、新型コロナウイルスをいち早く抑え込みに成功した国として、警戒しつつも経済活動が始まってきました。

さてパラグアイはと言いますと、◎パラグアイ政府は，5月4日から開始する外出制限の段階的解除の第1段階に関する大統領令を公布しました。●5月3日，パラグアイ政府は，5月4日から開始する外出制限の段階的解除の第1段階に関する大統領令（第3576号）を公布しました。外出制限の対象外とされる活動が拡大された一方で，ナンバーの末尾に基づく自動車の通行制限は継続されます。また，一定の条件の下で，屋外での個人の運動が許可されることとなっています。大統領令の概要は次のとおりです。

【ご参考：パラグアイ大統領府ホームページ】

https://www.presidencia.gov.py/decretos/

在パラグアイ日本大使館から

また、現在パラグアイの空港は航空機の離発着が5月は禁止されています。

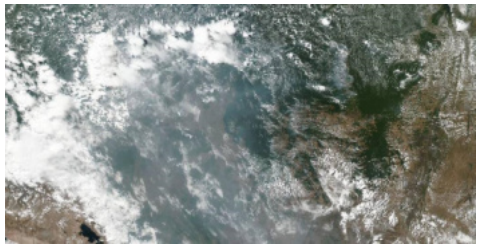
●アマゾン森林火災のその後

昨年、ブラジル・アマゾン地域の森林火災がクローズアップされましたが、今もその問題は解決されないままです。もともと、アマゾンの森林地帯は、森がうっそうと続く、熱帯雨林です。農業には適していないために、毎年、森林に火を放ち、焼き畑農業がおこなわれています。（nasa提供の写真）

本来焼き畑も、雨季と共に森林火災が終了するのですが、湿気が失われつつあり、なかなか火災が終わらないという現象が頻発し、延々と火災が拡大しているのです。

また、大規模な森林伐採により、農業地の確保が行われているために、熱帯雨林の奥深くに、大きな道路が何重にも作られて、開発が拡大しているのです。

開発と、保全のせめぎあいのようになっているのです。そのために当然、酸素の供給が減りますし、二酸化炭素は増えていくといった状況です。今後これが続くと、地球環境において深刻な温暖化の進行が早まるでしょう。



●宮脇昭先生の本を紹介

宮脇昭先生 は、御年90歳！ 世界的な植物生態学者です。 当会の顧問をされている宮脇昭先生が2018年9月26日に、「東京に『いのちの森』を!」（藤原書店）の本を出版されました。（2018年11月131号フォレストニュースで紹介）

生涯4000万本の木を植え、植樹の神様と言われ、「宮脇方式」の森づくりの実践で世界的に有名です。2020年東京オリンピック目前！ かろうじて緑を残す東京も、大行事と人間の集中によって自然環境は必ずダメージを受けます。宮脇先生は千年先に残る本物の緑の都市づくりのために、潜在自然植生の思想に根ざした“いのちの森”づくりに生涯を賭けていらっしゃいます

1928年岡山生まれ。理学博士 広島文理科大学生物学科卒、ドイツ国立植生図研究所研究員となる。 横浜国立大学教授、国際生態学会会長などを経て、現在、横浜国立大学名誉教授 財団法人地球 環境戦略研究機関国際生態学 センター長。 紫綬褒章、勲二等瑞宝章、 ブループラネット賞（地球環境国際賞） などを受賞。世界各地で植樹を推進する現場主義の植物生態学者として、これまで国内外1700ヶ所以上で植樹指導し40 00万本以上の木を植えています。2015年 に病気になられてからリハビリをされて います。先生の著書一部 ＊「日本植生誌（全10巻）」至 文堂 ＊「植物と 人間ー生物社会 のバランスー」N HK ブックス ＊ 「緑環境と植生 学ー鎮守の森を 地球の森にー」N TT出版 ＊「明日を植えるー地球にいのちの森を ー」毎日新聞社 ＊「次世代への伝言 自然の本質と人間の生き方を語る」地湧社 ＊「三本の植樹から森は生まれる」祥伝社 ＊「「森の長城」が日本を救う！」河出 書房新社 ＊「瓦礫を生かす「森の防潮堤」が命を守る」学研新書

2019年４月１４日神奈川県秦野市で行われた「いのちの森づくり 宮脇昭復活植樹祭」にて